しあわせ

1月号

これからが、これまでを決める。

（藤井聡麿）

「手を合わす母」

新年あけましておめでとうございます。新型コロナやロシアによるウクライナ侵略、円安、そして物価高。次々と飛び込んでくるニュースに翻弄された昨年だった。

新年を迎えても大きな変化はなく混沌とした情勢が続きそうな世界情勢で、ことにエネルギー問題は生活に大きな影響を与える。

心配はさておき、大きな区切りでもある新年を迎えて心を新たにし、実りある一年となるようささやかでも目標をもって出発したい。

個人的な願いや目標はささやかなものだが、そのささやかな願いこそ、人の生きる意味であり、価値であろう。　その願いや目標が人の一生に味をつけ豊かな実りをもたらしてくれる。

ところで、人の一生の実りとは何だろう。それは、いつでもどこでもどんな時にも生まれて来て良かったと言える私になること。お父さん、お母さん、この命有難うと言える人間になることだと仏法は教えている。

法座案内

＜報恩講法要＞

一月　十二日（木）　昼席・夜席

十三日（金）　昼席

講師　福田康正　師

（山口県　専福寺前住職）

＜法味の会＞

一月はお休みいたします。

※本堂内は常時換気しておりますが、参拝の際は、検温・マスク着用をお願い致します。

府中町山田一丁目二十五十三
栢原山　龍仙寺
電話（〇八二）二八二十四八二

あのとき○○してしまったから…、あのとき△△できなかったから…。わたしたちはしばしば、過去を悔い、取り返しのつかない過去にしばられて生きているのではないでしょうか。しかし今月のことばは、そのようなわたしたちの考えを根底からくつがえします。

これからが、これまでを決める。

真宗大谷派の藤井聡磨先生のことばです。これからどのように生きていくのか、これからの生き方こそが、これまで歩んできた道のりの意味を決めるのだといわれるのです。ふつう私たちは、過去は変えることができないと考えています。しかし、本当に過去は変えられないのでしょうか。たしかに過去の事実は変えられません。しかし、意味は変えられます。そして意味が変われば、すべて変わります。なぜなら、人間は事実ではなく、意味で生きているからです。

最近NHKの朝ドラ「舞いあがれ」に吉川晃司さんが出ておられますが、じつは吉川さんはわたしの中高時代の水球部の大先輩で、プールで一緒に練習させていただいたこともあります。また吉川先輩は府中町出身で、なんとうちの幼稚園の卒園児でもありますので、いつも特別な思いでテレビを見ています。今朝も心打たれる、いい場面がありました。吉川先輩は航空学校の鬼教官の役をされていますが、きびしい指導のなか、水島という学生が試験失格となり、学校を去っていきます。「パイロットの適性をもたない学生をいち早く見つけ、落とすことも、わたしの仕事だ。」という教官に反発する主人公の舞ちゃんですが、最後には、その言葉の真意に気付きます。「パイロットの道を断たれたからといって、水島学生の人生が、終わったわけではない。大切なことは、水島学生が、これから、どう生きていくかだ。・・・」

静かに一言一言を置いていく先輩の演技にしびれつつ、「これからが、これまでを決める」という藤井先生のことばを思いあわせ、目頭が熱くなってしまった今朝の十五分でした。

人は過ちを犯します。過ちを犯さずに生きることのできる人など、誰一人としていないのでしょう。わたしにも、黒板のように消せるものならば、あちこち消して回りたい過去が少なからずあります。しかし、大事なことは、過ちを犯さずには生きられないこの身を、どのように受けとめ、いかに生きていくのか、なのですしょう。たとえ過去に起こった事実は変えられなくとも、その過去にどのような意味を与えていくかは、これからの生き方にこそかかっているのですから。発明王のエジソンは、数えきれない実験失敗を繰り返しながら、多くの発明を成し遂げていきましたが、「失敗というものはない。その方法ではなかった、という発見なのだ。」と語っています。

期待する結果のでなかった数えきれない実験を、ただの「失敗」に終わらせるのか、「発見」とするのか。意味が変われば、文字通り、すべてが変わるのですね。わたしたちはときに、取り返しのつかない（と思っている）過去にしばられ、未来の可能性を捨てようとします。しかし本当に捨てるべきは、過去は変えられない、という想念ではないでしょうか。お釈迦さまは、次のように説かれています。

「以前には怠り怠けていた人でも、のちには怠り怠けることがないなら、その人はこの世の中を照らす。ー雲を離れた月のように。」

人は過ちを犯さずには生きられません。しかし、たとえいかなる過去であろうとも、大事なことは、いかに生きるかにあるのです。その一点を、けっして忘れてはならないのです。なぜなら、過去すらも変わるのであり、これからが、これまでを決めるのですから。